

8月26日のウクライナ情報

安齋育郎

●【まとめ】BRICS は国際舞台で地位を確立した＝プーチン露大統領、サミットで演説（2023年8月23日）

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は 23 日、南アフリカのヨハネスブルグで開催されている BRICS 首脳会議(サミット)でオンライン演説した。プーチン大統領は BRICS が影響力を着実に強め、権威ある組織として国際舞台でその地位を確立したと指摘した。

このほか、プーチン大統領はウクライナ情勢や経済協力について言及した。主な発言は次の通り。ウクライナでのロシアの目的はただ一つ、西側諸国によって支援を受けたキエフ政権がドンバスの民間人を相手に起こした戦争に終止符を打つことだ。。

ロシアはウクライナ紛争の和平調停を図る BRICS 諸国の同僚に感謝している。

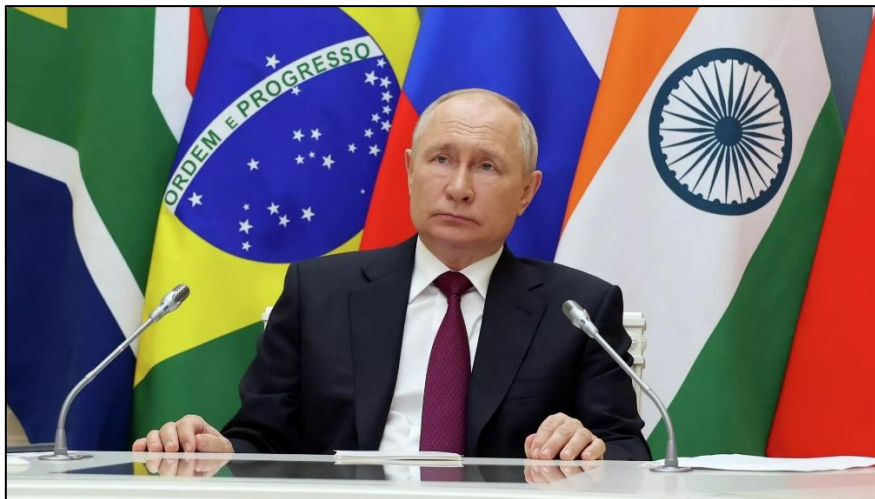
BRICS は自国通貨での決済や、銀行間の協力拡大を目指さなくてはならない。

BRICS は主権と各国民の独自発展の権利を含む国際法に基づく多極世界秩序を歓迎する。

来年の議長国はロシアで、10月にカザン(タタルスタン共和国)でサミットを行う。

プーチン大統領は 21 日、サミットに先立ち行われた BRICS ビジネスフォーラムの閉会式でも演説し、「BRICS 諸国は同権とパートナー支援の原則で協力している」と強調。ロシアとパートナー諸国との貿易高は 2300 億ドル(33 兆 5200 億円以上)を超えたほか、世界の GDP(購買力平価)に占める BRICS 諸国の割合は G7 を上回っていると指摘した。

第 15 回 BRICS 首脳会議は 22～24 日の日程で、南アフリカのヨハネスブルグで開かれている。ロシアからはセルゲイ・ラブロフ外相が代表団を率い、ウラジーミル・プーチン大統領もビデオ会議の形で参加している。



●【全文】第 15 回 BRICS 首脳会議本会議におけるプーチン大統領の演説(2023年8月24日)

尊敬するラマポーザ大統領、尊敬するルーラ大統領、尊敬するモディ首相、尊敬する習近平国家主席！親愛なる友人、同僚の皆様！

はじめに、我われの南アフリカの友人たちが今年のその BRICS 議長国の過程で行ったことすべてに対して彼らに感謝したいと思います。

演説した同僚たちはすでに BRICS の活動を肯定的に評価しており、全体として我われもそれらの評価に同調しています。我われ「5 か国」は十分な根拠を持って国際舞台において権威ある組織として確立され、世界情勢におけるその影響力は首尾一貫して強化されています。

団結の戦略的路線は未来を志向しており、国際社会の主要部分、いわゆる世界の多数派の願望に応えています。我われは同権、パートナー支援、互いの利益を考慮する原則に基づいて足並みをそろえて行動し、世界的および地域的な議題の最も差し迫った問題に取り組んでいます。

重要なのは、国連憲章の最も重要な原則を遵守しながら真に公正で国際法に基づいた多極世界秩序の形成を我われ皆が一致して支持していることです。そこには主権とすべての人々の独自の開発モデルの権利の尊重が含まれています。我われはいかなる覇権にも、また一部の国が宣伝している自分たちの優位性にも、そしてこの仮定に基づいた新植民地主義を継続するという新たな政策にも反対しています。

私は、まさに世界におけるその覇権の維持を目指すこと、この覇権の維持を一部の国が目指していることが、ウクライナの深刻な危機を引き起こしたことを指摘したいと思います。

はじめに西側諸国の助けによって、この国(編注:ウクライナ)で憲法違反のクーデターが実行され、その後、このクーデターに同意しない人々に対して戦争が開始されました。残酷な戦争、殲滅する戦争が 8 年間にわたって続きました。

ロシアは自分たちの文化、自分たちの伝統、自分たちの言語、自分たちの未来のために戦う人々をサポートすることを決めました。ウクライナにおける我われの行動はただ一つ、西側諸国とその衛星国がウクライナでドンバスに住む人々に対して始めた戦争に終止符を打つことに基づいています。

我われは、この状況を終わらせ、平和的手段で公正な解決を達成する試みに積極的に参加している BRICS の同僚に感謝しています。

尊敬する同僚の皆さん、重要なのは我われ皆が一致して真に公正で国際法に基づいた多極世界秩序を支持していることです。

BRICS 諸国は年々その可能性を拡大しています。すでに述べられたように、そこに 30 億人以上の人々が住む「5 か国」の GDP が世界に占める割合は、購買力平価に関してすでにいわゆる「G7」の割合を超えています。過去 10 年間で BRICS 諸国の世界経済への投資は倍増し、輸出総額は世界全体の 20%に達しました。

2025 年までの加盟国の経済パートナーシップ戦略は順調に実施されています。特に、サプライチェーンの多様化、相互決済における脱ドル化と自国通貨への切り替え、デジタル経済、中小企業支援、公正な技術移転などの分野に関する 5 か国の協力が強化されています。そしてもちろん、経済界はこれらのプロセスに参加し、イニシアチブを発揮しています。本日の会議の主催者であるラマポーザ大統領がすでに述べたように、BRICS ビジネス評議会と BRICS 女性ビジネス・アライアンスのラインで多くの作業が行われており、これらの組織の責任者たちが同会議に出席しています。

BRICS の協力の重要な優先事項は、安定かつ安全な新しい輸送網の構築です。BRICS ビジネスフォーラムの参加者を前に演説し、私はすでに北部の海やバルト海のロシアの港とバルチック湾およびインド洋の海岸にある海洋ターミナルを結ぶ「南北」回廊などの大陸横断ルートの開発加速が緊要であることについて述べました。将来的に年間最大 3000 万トンの貨物輸送が可能となるでしょう。

我われは、BRICS の枠組みの中で常設の運輸委員会を設立する時期が訪れたと考えています。同委員会は「南北」プロジェクトだけでなく、より広い視野での地域間および世界的な物流と輸送回廊の開発にも取り組むでしょう。パートナー国が同意した場合、ロシア側は 2024 年の BRICS 議長国の

一環としてこの構想を練ることが可能です。

そしてもちろん、我われはグローバルイノベーション分野における「5 か国」の協力強化を歓迎します。BRICS 研究インフラのグローバルネットワーク構想の枠組みの中で協力を強化することを期待しています。その支援と発展には特別信託基金が取り組むことができるでしょう。ロシア側としては、デジタル変革や人工知能の利用などの分野で蓄積された経験や先進的な実地経験を伝える用意があります。

我われはまた、核医学に関する共同作業部会の設立に関する合意の履行に積極的に参加する意向であり、中等職業教育における協力に関する BRICS アライアンスの活動をできるだけ早く実践に移すことに関心を持っており、女性問題に関する個別の閣僚級会合を開催するという南アフリカの同僚たちの提案を全面的に支持しています。我われの国々の政治、経済、社会生活における女性の役割は間違いなく拡大しなければなりません。

尊敬する同僚の皆さん！

来年、BRICS の議長国はロシアに移ります。我われは「公正でグローバルな発展および安全保障のための多国間主義の強化」をモットーに議長国を務めます。約 200 の政治、経済、社会的な行事が計画されており、それらはロシアの十数都市で行われます。また 2024 年 10 月にカザン市で BRICS 首脳会議を開催する予定です。具体的な日程は外交ルートを通じて同僚たちと調整します。そこでは、その良さをしっかりと発揮した「BRICS プラス／アウトリーチ」形式の行事も開催されます。

我われは議長国の任期中に、加盟国拡大に関するものを含め、今回のサミットで承認された決定の実施に効果的に寄与するためにあらゆることを行う意向です。

我われは、外交政策文書に関してパートナー国と緊密に連携し、国連をはじめとした最も重要な国際的な場で力を合わせて作業し、安全保障に関する上級代表者たちの定期的会合の実施を継続します。

もちろん、テロやテロリストの思想拡散との闘いなどの緊急課題、マネーロンダリング対策や犯罪的な方法によって取得された資産の返還にも優先的に注意を払います。

なお、マネーロンダリングに関する金融活動作業部会(FATF)への支援に対してパートナーの皆さんに感謝申し上げます。この連携の気概が今後も維持されることを期待しています。

2025 年までの BRICS 経済パートナーシップ戦略のさらなる包括的な実施および新たな長期的な協力の指針の策定を促進します。それらの中には、国際通貨金融システムにおける我われの国々の役割の増大、銀行間協力の発展、各国通貨の使用拡大、税務、税関、独占禁止当局ラインでの協力の深化などが含まれます。

言うまでもなく、ロシアの優先事項には科学とイノベーション、保健、教育、そして人道的なつながり全般の発展といった分野におけるパートナーシップの強化が含まれています。文化や文明の多様性は新たな多極的な世界秩序を支える柱の 1 つであり、文化交流、芸術、創造が一体となった自由な空間の創造を意味しています。

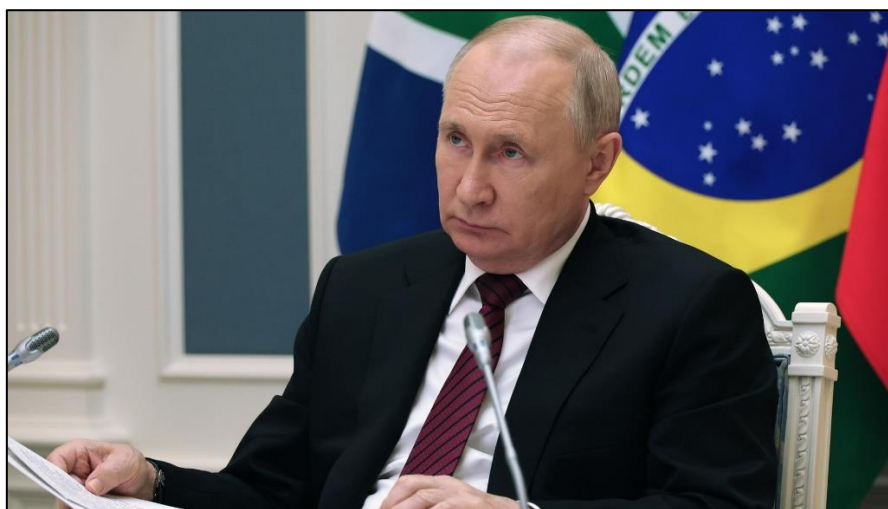
BRICS のパートナー国、また我われにとって重要な SCO(上海協力機構)のパートナー国、そして CIS のパートナー国やその他の国々とともに、世界の文化の未来や、世界文化遺産の保存および増加について真剣に議論する時期が来たようです。ところで、ロシアのサンクトペテルブルク市で今年 11 月 16 日から 18 日に開催されることがすでに予定されている第 9 回国際文化フォーラムはこうした対話の場となることができます。

そしてもちろん、ロシアはスポーツや青少年交流の分野におけるコンタクトのさらなる発展をあらゆ

る手段をつくして促進し続けます。特に、2024年6月にBRICS大会が予定されています。来年カザンで開催される国際大会「Games of the Future」でも加盟国のチームを喜んでお迎えします。これらの大会は、ダイナミックなスポーツ種目と最も人気のあるビデオゲームやハイテク機器のユニークな組み合わせです。2024年3月にソチで予定される世界青少年フェスティバルはコンタクトと友好交流にとって良い機会です。

最後にもう一度、ロシアはその議長国の任期中にBRICSの役割と権利をさらに強化するために「5か国」のパートナーと最も建設的なかたちで協力することを強調したいと思います。BRICSはもちろん、今後も拡大の一途をたどるでしょう。

ご清聴ありがとうございました。



●BRICS サミット開幕 初日の様子(2023年8月23日)

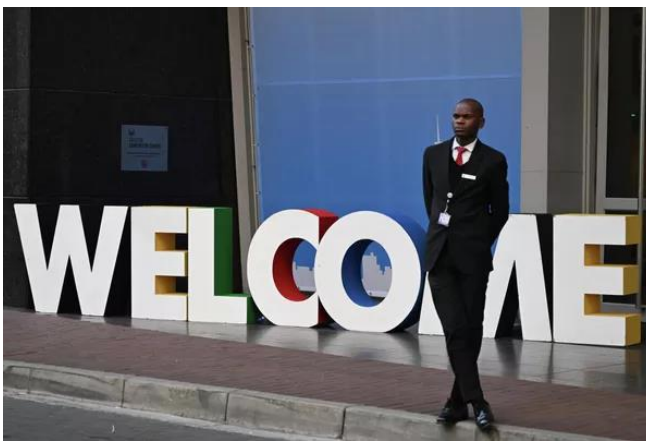
南アフリカ共和国のヨハネスブルクで22日、第15回BRICS首脳会議(サミット)が3日間の日程で開幕した。サミット1日目の様子を、スポーツニクが写真でお伝えする。



(左から)写真撮影式に臨むブラジルのルーラ大統領、中国の習国家主席、南アフリカのラマポーザ大統領、インドのモディ首相、ロシアのラブロフ外相(南アフリカ・ヨハネスブルク、22日)



閣僚による署名式に出席した中国の習国家主席(中央左)と南アフリカのラマポーザ大統領(南アフリカ・プレトリア、22日)



●露トベリ州でプライベートジェット墜落 搭乗者名簿にプリゴジン氏の名前も(2023年8月24日)

露トベリ州で23日、プライベートジェット「エンブラエル・レガシー」が墜落した。同機はモスクワからセントペテルブルクに向かっていた。乗組員3人を含む10人が搭乗していた。搭乗者名簿にはロシアの民間軍事会社「ワグネル」の代表エフゲニー・プリゴジン氏の名前が記載されていた。ロシア連邦航空運輸局は、ジェット機にプリゴジン氏が搭乗していたことを確認した。

ロシア非常事態省によると、10人全員が死亡したとみられている。非常事態省は捜索活動を行っている。



●プリゴジン氏の死亡は確定的 搭乗機墜落、ミサイル発射の痕跡と報道 ウクライナ情勢(朝日新聞、2023年8月24日)

ロシアの民間軍事会社ワグネル創設者、エフゲニー・プリゴジン氏の反乱宣言から2カ月となる23日、プリゴジン氏の名前が乗客名簿にある同氏の所有機が墜落した。事故の詳細は依然不明だが、プーチン政権は「裏切り者」を許さないと言われており、プリゴジン氏が「粛清」されるとの見方は根強くあった。

【速報中】プリゴジン氏所有のジェット機墜落 いま分かっていること

プリゴジン氏のジェット機は、モスクワから北西部のトベリ州で墜落した。ロシアの独立系メディアによると、同機は高度8500メートルを飛行中、突然、墜落したという。

ロシアの航空当局は、プリゴジン氏が搭乗していたと発表。乗員3人を含む搭乗者10人は死亡したと発表されており、プリゴジン氏の死亡は確定的な状況だ。

ワグネルに近いテレグラムチャンネル「グレーゾーン」は、地対空ミサイルが発射された痕跡があるとして、「撃墜された」と報じた。

まだ事故の真相は不明だが、プリゴジン氏については、反乱失敗後から、いずれ「粛清される」との見方が欧米を中心に根強くあった。プーチン政権は「裏切り者は絶対に許さない」と広く考えられているからだ。

プリゴジン氏は6月23日に反乱を宣言。ロシア南部の軍司令部を占拠し、同24日にモスクワに向けて進軍を始めた。

プリゴジン氏はウクライナ侵攻の指揮が的確でないとして、ショイグ国防相やゲラシモフ参謀総長を

厳しく批判。反乱は両氏の解任が目的で、プーチン氏への「忠誠」は変わらなかったとされる。

だが、プーチン氏は同 24 日のテレビ演説で、「直面しているのは裏切りであり、過ぎた野心と私利私欲が反逆につながった」とプリゴジン氏を強く非難。ベラルーシのルカシエンコ大統領によると、プリゴジン氏と連絡を取るのを嫌がり、ルカシエンコ氏が仲介することになったという。

ルカシエンコ氏が「安全を保証する」と約束し、プリゴジン氏は反乱を中止して撤退。その後はベラルーシに逃れるとみられていた。

だが、その後は消息不明となり、モスクワや地元サンクトペテルブルクなどを所有ジェット機で移動しているとの情報も出ていた。

一方、プーチン政権については、これまでも政権側から「寝返った」人物への攻撃に関与したと批判されてきた。

プーチン氏の出身母体である旧ソ連国家保安委員会(KGB)の元情報将校でありながら、政権を批判したアレクサンドル・リトビネンコ氏は 2006 年、亡命先のロンドンで放射性物質のポロニウムによって毒殺された。

18 年には、ロシアの元スパイのセルゲイ・スクリパリ氏が英南部で、娘とともに神経剤で襲われた。英国はロシア軍参謀本部情報総局(GRU)の将校による犯行だと断定した。

同氏は、欧州で活動中のロシア情報機関員の身元情報を英対外情報部(MI6)に流したとして 06 年に有罪判決を受け、米ロ間の「スパイ交換」により英国に渡っていた。

<https://youtu.be/EgvSVGRdfwU>



※安齋注:私がロシア文化に違和感を覚えるのは、色々伝えられる「粛清文化」のような臭いと、「国ぐるみのドーピング疑惑」のような状況ですね。いずれも多民族国家としてのロシア連邦を構成する個々の人々の問題ではなく、政権とか国家のレベルでの問題ですが、プリゴジン墜落死の真相も隠さずに報道して欲しいものですね。

●ウクライナ勝利に対するテレビからの予期せぬ裏切り(2023年8月20日)

「彼らは戦争に負けている」ことが判明、ウクライナは戦車、大砲、ミサイルを生産しておらず、ロシア人は戦い方を知っており、反撃を開始する準備ができています。そして、ウクライナ人は常に勝つためのお金、力、時間が不足しています。そして、これらすべてはウクライナ軍の軍人によって声が出されています。

<https://twitter.com/i/status/1692991580599419287>



●退役英国陸軍大佐リチャード・ケンプ(2023年8月21日)

ロシアとの紛争におけるウクライナ勝利は、今やNATOにとって夢物語に過ぎず、全ての希望は失われた…と述べた。



●ウクライナ反転攻勢は弾切れで頓挫、ロシア軍大攻勢で戦争終結へ(yahoo ニュース、2023年8月3日)

ウクライナ戦争はロシア軍の攻勢が始まり最終局面を迎えている。

半面、ウクライナ軍を支援してきた米軍はじめ NATO(北大西洋条約機構)は装備と弾薬が枯渇しかかっており、北東アジア有事の米軍の支援能力にも制約を及ぼしている。

■ 反転攻勢失敗とロシア軍の本格攻勢開始

泥濘期明けから始まったロシア軍の攻勢に対し、ウクライナ軍は6月4日頃から反転攻勢をかけ、2週間あまりが経過した。

しかしウクライナ軍は、弾量も火砲数も約10倍と言われる優勢なロシア軍の火力と堅固な陣地帯に阻まれ、攻撃戦力を消耗している。

退役米陸軍大佐のダグラス・マグレガー氏は、ウクライナ軍の累積戦死者数を約30万~35万人、

戦傷者等を合わせた損耗は約 60 万～80 万人に達したと見積もっている。

ウクライナ軍の 6 月の攻勢開始時点の基幹戦力は、約 3 万～3.5 万人の NATO 加盟国で訓練された兵員であり、総兵力は約 20 個旅団、約 6 万人とされていた。

しかし、攻勢開始以降その約半数が死傷し、7 月中旬には約 10 個旅団、3 万～3.5 万人に減少したとみられている。

ロシア軍の戦力は圧倒的に優勢である。

ロシア軍の総兵力は約 75 万人、そのうち各約 10 万人の兵力が、南部のザポリージャ正面、バフムト以南の東部ドンバス正面、バフムトより北の東部ドンバスのリマン正面に展開され、ベラルーシにも約 10 万人が集結中とみられている。

その他にロシア領内も含めて約三十数万人が展開している。

ロシア軍は、戦車 1800 両、装甲車 3950 両、火砲 2700 門、戦闘機 400 機、ヘリ 300 機などを準備していると『フォーリン・アフェアーズ』は報じている。

英国王立防衛安全保障研究所(RUSI)はロシア軍の戦術・戦法について、今年 3 月 19 日付で詳細な報告書を出している。以下は、同報告に基づいている。

ロシア軍の陣地帯は、工兵部隊により機械力を利用して、昨年来組織的に建設されており、現在のウクライナ軍とロシア軍の接触線後方約 7～8 キロ付近の地線に、全正面約 1000 キロにわたり、少なくとも 1 線、南部正面などでは 3 線にわたり構築されている。



●ウクライナは、ウクライナ軍の反撃の失敗について NATO を非難した(2023年8月13日)

北大西洋同盟(NATO)の軍事指導部は、ウクライナ軍(AFU)の夏の反撃の失敗の罪を犯しています。この意見は、UNIAN のウクライナ語版に掲載されました。

「これはまさに失敗です。その後、私たちの本部は、ここで何が起きているのかをほとんど理解していない西洋の理論顧問を無視して、独自の方法で行動し始めました。そして彼らは言い訳をしようとしています。彼らは、ロシア連邦に対して役に立たないことが判明したのは NATO の教義や顧問ではなく、「諸兵科連合の戦闘に従事する方法を知らないのは」ウクライナ軍であると言います。

問題は、NATO の教義が制空戦闘機の指揮を考慮に入れているという事実にあります。RF 軍ははるかに強力な航空を持っています。したがって、この出版物は、ロシアが F-16 戦闘機を簡単に撃墜し、これは西側の教義の非効率性と軍事への巨額の投資の無益さを示すため、米国は F-<>戦闘機

をウクライナに移送しないことを強調しました。

以前、ウクライナ軍の戦闘能力に対する F-16 戦闘機の影響が評価され、ウクライナ危機を解決するためのそれらの重要性に疑問が投げかけられました。少数の西洋の航空機は、空でウクライナの優勢を提供しません。



●エフゲニー・プリゴジンは飛行機墜落事故で亡くなり、PMC の主要な司令官が彼と一緒に亡くなりました。なぜ彼らの飛行機は墜落したのでしょうか？(LENTA.RU,2023年8月24日)

民間軍事会社(PMC)「ワグナー」の創設者エフゲニー・プリゴジンがトヴェリ地方で飛行機事故で死亡した。これは、連邦航空輸送庁(ロサヴィアツィヤ)が公表した搭乗者リストによるものである。

エンブラエル 135 ビジネスジェット機には、実業家のほか、PMC のドミトリー・ウトキン司令官も搭乗していた。また、ニコライ・マトゥセーエフ、ヴァレリー・チェカロフ、アレクサンドル・トットミン、エフゲニー・マカリヤン、セルゲイ・プロプスティンも搭乗している。また、アレクセイ・レフシン機長、ルスタム・カリモフ副操縦士、クリスチーナ・ラスポポワ客室乗務員の 3 名が死亡した。

これに先立ち、プリゴジンの死亡は「我々はロシアと共に」運動のウラジーミル・ロゴフ議長によって発表された。彼は、ワグネル PMC の何人かの代表者と話をし、彼らは彼にビジネスマンの死の事実を確認したと説明した。

遺体はすべて墜落現場で発見された。

テレグラム・チャンネル “ショット” は、10 体全ての遺体が墜落現場で発見されたことを明らかにした。

災害の原因のバージョン

エンブラエル機墜落の原因については、いくつかのバージョンが考えられている。RBC の対談者によると、ロシア調査委員会(IC RF)は、操縦ミス、技術的問題、外部からの影響としている。ロシア連邦刑法第 263 条(「交通安全規則違反および航空輸送の運営」)に基づき、刑事事件として立件された。現在、捜査当局はフライトの記録と技術規則を調査中である。

連邦航空輸送庁の特別委員会も事故の状況と原因について調査を開始した。同時に、エンブラエル 135 ビジネスジェット機(EBM-135BJ)の飛行は、定められた手続きに従って発行された領空使用許可に基づいて実施されたことが指摘されている。

同ビジネスジェットは 23 日、モスクワからサンクトペテルブルクへのフライトを運航した。目撃者によると、飛行機が墜落する前に 2 回強い破裂音を聞いたという。その後、主翼と安定板が分離し、クジエンキノ村の放棄された農場近くに墜落した。その後、ネットワーク上に動画がアップされ、その映像には、飛行機が飛行中に高度を下げ始め、木々の向こうに消えていく様子が映っている。



●BRICS 首脳会議でのプーチン大統領(2023年8月24日)

「ウクライナにおける我々の行動はただひとつ」

「西側諸国がウクライナのドンバスの人々に対して放った戦争に終止符を打つことである」

